

「国際ボランティア・デー」と「ボランティア・ウィーク」への取り組み

国連ボランティア計画(UNV)アド・デ・ラード事務局次長に聞く

2001年(平成13年)の「ボランティア国際年」(IYV)では、V活動の世界的な推進をめざし、日本各地でも様々な取り組みが行われました。そうした活動の盛り上がり継続して「広がれボランティアの輪」連絡会議(会長:阿部志郎/横須賀基督教社会館館長)では、昨年より12月5日の「国際ボランティア・デー」を中心とする1週間を「ボランティア・ウィーク」とし、ボランティア・市民活動の推進・普及を図っています。

そうした中、去る10月1日、V活動を国際的に推進する「国連ボランティア計画」(UNV)のアド・デ・ラード事務局次長が来日されました。「広がれボランティアの輪」連絡会議(以下、連絡会議)では臨時懇談会を開催し、今後のV活動の展開について意見交換の場を持ちました。

そこで今回の特集は、その内容を報告するとともに、今年のボランティア・ウィークの取り組みについて紹介します。



歓迎の挨拶をする
阿部志郎会長



「ボランティア活動への社会的支援策のあり方に関する懇談会」からのご報告

去る10月1日、東京都・新霞が関ビルにおいて、「連絡会議」構成団体とアド・デ・ラード事務局次長による懇談会が行われました。

阿部志郎会長による歓迎のご挨拶の後、アド・デ・ラード氏から「国際ボランティア・デー」、「国連ボランティア計画(UNV)」の活動等についてご報告いただきました。

国際ボランティア・デーの意義

そもそも「国際ボランティア・デー」とは、1985年、国連によって制定された国際デーの1つで、「世界中の経済と社会開発の推進のため、V活動の貢献に対する認識を高め、社会のあらゆる層からより多くの人々が、国内外においてV活動に参加できる機運を高める日」とされている。

そして、12月5日の「国際ボランティア・デー」最大の目的は、2001年のボランティア国際年(IYV)における成果と課題を、全世界の人々が共に考える機会となること。また、世界各国で多様なV活動を行っている様々な人々や団体、機関が、それぞれの活動をアピールし、V活動の輪を広げていく絶好の機会となることである。

国連ボランティア計画(UNV)では現在、世界各国で展開された国際ボランティア・デーの事例報告をホームページ(<http://www.worldvolunteerweb.org/events/ivd/index.htm>)で紹介。今後は、各国でどのようなV活動プログラムを企画しているのか情報交換できる場を開設する予定で、ウェブを通じた世界規模のネットワークに向けた取り組みも積極的に進めている。

国連ボランティア計画(UNV)の活動

国連ボランティア計画(UNV)は1970年の国連総会決議によって設立されて以来、国連ボランティアの募集・派遣など、途上国の開発協力におけるV活動を支援している。また、ボランティア国際年(IYV)の推進機関でもあった国連ボランティア計画(UNV)



和やかな笑顔で報告するアド・デ・ラード氏
[左は通訳を務めた北島 千佳氏(信託基金管理官)
右は斯波 知子氏(東京事務所駐在調整官)]

アド・デ・ラード 国連ボランティア計画事務局次長プロフィール

オランダ・デルフト工科大学にて土木工学の修士号取得。国連開発計画(UNDP)パングラデシュ事務所(1980年~84年)、タンザニア事務所(1984年~87年)のシニアポジション等を歴任した後、1993年より1998年まで、国連開発計画(UNDP)ニューヨーク本部の財政部長を務める。1998年7月に国連ボランティア計画事務局次長に就任。

では、現在、2つの取り組みを重点に活動を展開している。

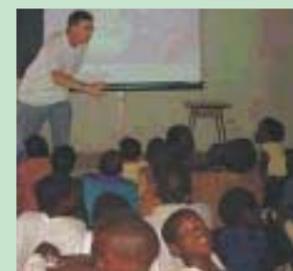
1つは、「国際ボランティア年のフォローアップ」で、ボランティアに関わる取り組みを、様々な機会を促して推進・PRを引き続き行うとともに、世界や文化が違って「ボランティア精神」という共通の規範を持った「世界市民社会」の形成をめざして、世界各国の人々がV活動に参画できるようなプログラム開発・展開を進めている。

もう1つは、「ミレニアム開発目標」(<http://www.undp.or.jp/mdg/index.html>参照)の達成に向けた取り組み。「ミレニアム開発目標」とは、2000年9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで、21世紀の国際社会の目標として採択された国連ミレニアム宣言と、1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合したもので、途上国における「極度の貧困と飢餓の撲滅」、「普遍的初等教育の達成」、「HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」、「環境の持続可能性の確保」など、8つの目標を掲げ2015年までに達成することをめざした。UNVでは毎年、約160カ国から

5,000人を超えるボランティアを、世界140カ国に派遣しているが、これらの多くは「ミレニアム開発目標」に関連した開発プログラムに関わる活動を行っている。

世界各国における国際ボランティア・デーの取り組み

ここで、世界各地で行われているV活動の一部をご紹介します。(情報・写真提供:国連ボランティア計画)



アンゴラの首都ルアンダでは、UNVが中心となりストリートチルドレンを対象としたイベントを主催。ルアンダのストリートチルドレンが直面する問題への意識喚起を行うとともに、子どもたちにそれぞれの存在の重要性について説いた。



ナミビアでは、この日「V活動を通じてナミビアにおけるHIV/AIDS根絶を」というテーマのもとイベントが行われた。このイベントでは、HIV/AIDSで家族を失った子どもの世話をするために、率先してボランティアをすることを呼びかけた。



ブルキナ・ファソやコンボでは、小学校の生徒たちによる絵のコンテストを通じて、子どもたちにボランティアの重要性について考えてもらう取り組みが行われた。

2002年の国際ボランティア・デーには、ニュージーランド政府がこの日にあわせてボランティアに関する国の新しい政策を発表したり、パングラデシュでは、国内のV活動に関する本が発行されたほか、ボランティアによる行進や、様々な団体のボランティアが集結してごみの清掃活動を行うなど、世界各地で多様なイベントが行われた。

もし明日全ての人
がボランティア活動を止めたら、
社会は機能しなくなる

国連ボランティア計画(UNV)事務局次長
アド・デ・ラード氏

日本では阪神・淡路大震災等の自然災害によってV活動が大きく発展したという経緯がありますが、2001年のボランティア国際年はまさに、震災で立ち上がったボランティアの皆さんを初めとする日本の提唱によって誕生しました。

現在、日本でも多くのボランティアが各地域で様々な活動を展開しています。国や政府が非常に限定された役割しか果たせないのに対し、人々の支援・協力関係で成り立つV活動は社会にとって重要な役割であり、もし明日全ての人々がV活動を止めてしまったら、その社会は機能しなくなると私は考えます。

このように「ボランティア精神」は、人間の活動の様々な側面を含む社会横断的な現象といえます。V活動への市民参加は、市民としての機会であるとともに義務でもあり、V活動は良い方向へ動かすこともできれば、その逆もありえます。毎年12月5日の国際ボランティア・デーは、組織や個々のボランティアの方々に、日頃皆さんが行っているV活動の意思を明確にし、目標達成のための方法を考える場となること。そして、皆さん一人ひとりが行っているV活動がいかに大切なことであるかを、あらためて確認される機会となることを期待しています。

国連ボランティア計画(UNV)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス7階
TEL.03-5467-7815 FAX.03-5467-4878
URL <http://www.unv.or.jp/>

12月1日からの1週間は「ボランティア・ウィーク」です!

ボランティア・ウィークってなに?

「広がれボランティアの輪」連絡会議が提唱

「広がれボランティアの輪」連絡会議では、12月1日～7日の1週間を『ボランティア・ウィーク』として、ボランティア・市民活動の啓発普及を図る取り組みを行う。

これは、『国際ボランティア・デー』(12月5日)を中心とした、前後1週間を『ボランティア・ウィーク』とすることで、V活動への参加・推進そのものを、幅広い市民に対してアピールすることが目的で、昨年初めて提唱され、今年が2年目の活動となる。

「連絡会議」では、多くの市民が集まる場所でのアピール活動展開、マスコミへの働きかけ等を通じて、『ボランティア・ウィーク』を積極的に紹介するとともに、全国各地においても『ボランティア・ウィーク』期間中に多様な取り組みがされるよう働きかけを行っている。



2002年度
「ボランティア・ウィーク」の様相
(JR東京駅・八重洲口)



2001年「ボランティア国際年」の理念を引き継ぐ「ボランティア・ウィーク」

一昨年(2001年)は日本政府の提案により国連総会で実施が決定された『ボランティア国際年』であった。ボランティア国際年実施にあたっては、政府・各省庁をはじめ、民間のV活動推進組織により、全国各地で多様なV推進・啓発活動が実施された。

今回「連絡会議」が実施する『ボランティア・ウィーク』は、『ボランティア国際年』の理念を日本国内において継承し、発展させることも視野に入れて活動を行っていく。

今年の取り組み予定

(1)ポスター・カードによる啓発(11月中旬～)

『国際ボランティア・デー』『ボランティア・ウィーク』のPRを目的として、ポスターとカードを作成する。カードは、イベントの参加者などに配布し、V活動推進にむけてのメッセージを記入してもらえるようになっている。



デザイン案

(2)「広がれ!ボランティア・フェスタ」の実施(12月5日)

12月5日『国際ボランティア・デー』当日、主に社会人・勤労者をターゲットに、東京都内において、著名人等の参加とマスコミの協力を得て、V活動への参加を呼びかける『広がれ!ボランティア・フェスタ』を実施する。

[日時]12月5日(金)

[会場]JD-CROSS(東京都千代田区丸ノ内) 予定

[概要]

- ・コンサート、スピーチなど、著名人の参加によるV推進のためのアピール活動
- ・「連絡会議」や関係省庁の紹介コーナー等の設置

(3)「ボランティア・ウィーク記念シンポジウム」の実施(12月6日)

V活動推進を図るため、先進的なV活動実践を紹介しながら、V活動推進にあたっての課題を探る「シンポジウム」を、東京都内において実施する。

[日時]12月6日(土)

[会場]経団連ホール(東京都千代田区大手町) 予定

[概要]リレートーク、対論、交流会ほか

(4)ボランティア活動に対する社会的支援策のあり方に関する「提言」の発表(12月6日)

V活動推進と、そのための社会的支援のあり方を「提言」として発表し、V関係機関・団体等に配布する。今年度は「コミュニティ・地域社会」とV活動について、上記シンポジウムにて発表予定。

みなさんの地域でもアクションを起こしてみませんか!

ボランティア・市民活動への興味や機運が高まっている現在、広く地域に呼びかけ、市民による地域社会づくりへの参加を促す絶好の機会です。

ボランティア・市民活動の啓発にむけて、『ボランティア・ウィーク』を契機として、それぞれの地域で取り組み方法を考えてみてください。

ポスター・カードは、都道府県・指定都市社会福祉協議会等に配布する予定ですので、『国際ボランティア・デー』『ボランティア・ウィーク』啓発のためにご活用ください。